

I 業務運営・財務内容等の状況
 (3) 自己点検・評価及び情報提供
 ① 評価の充実に関する目標

中期目標 自己点検・評価を有効かつ効率的に行い、評価結果を公表するとともに大学運営の改善等に結びつけるシステムを確立する。

中期計画	平成19年度計画	進捗状況		判断理由（計画の実施状況等）		ウェイト	
		中期	年度	平成19年度までの実施状況	平成20～21年度の実施予定	中期	年度
①自己点検・評価の改善に関する具体的方策 【60】 ・ Iの1の(3)の③の「教育活動の評価及び評価結果を質の改善につなげるための具体的方策」及び同2の(2)の⑥の「研究活動の評価及び評価結果を質の向上につなげるための具体的方策」に掲げるところにより構築する各教育研究組織の体制と連動させつつ、それらの機能が効率的に発揮しうよう支援するとともに、全学的業務に係る自己点検・評価を実施することを任務とする全学システムを確立する。			III	(平成16～18年度の実施状況概略) ・ 平成16年4月に本学における評価の基本的事項を定めた評価規程を制定し、各教育研究組織の評価体制を支援するとともに全学的業務に係る自己点検・評価を実施すること等を任務とする評価室を設置した。評価室は、各教育研究組織の評価体制が効率的に機能を発揮しうよう以下のとおり支援した。 ① 本学における評価の概要や評価室と各総長室・各部局等の役割分担等の全学的方針を取りまとめ、各部局等に周知した（平成16年度）。 ② 教員の教育・研究・管理運営・社会貢献の諸活動を取りまとめ、評価の基礎資料として、ホームページで公表した（平成16年度～平成18年度）。 ③ 評価のためのデータを一元的に集積する大学情報データベースを構築し、平成19年2月に運用を開始した。本データベースは、上記②の情報を初期データとして登録し、公開した。 ④ 学生による授業アンケートを実施し、その結果を各教員及び所属部局長等にフィードバックするとともに、全学の傾向を分析し公表した（毎年度実施）。 また、評価室は各総長室と協力し、全学的な自己点検・評価を以下のとおり実施した。 ① 各年度の実績報告書の作成方針を策定し、	・ 評価室は、各総長室等と連携して中期目標期間における実績報告書を作成するとともに、大学情報データベース等を活用し、各教育研究組織における評価が円滑に実施されるよう支援を行う。 ・ 平成21年度に機関別認証評価を受ける。そのため、認証評価を受ける際の自己評価書を適切かつ効率的に作成するための方策を策定し、これに沿って全学的に評価作業を実施する。		

			<p>適切かつ効率的に作成するとともに、評価結果については、大学運営の改善・向上に活用した（毎年度実施）。</p> <p>② 各年度の実績報告書の作成方法を検証し、中期目標期間評価の実施方策について検討した（平成18年度）。</p>		
	<p>【60-1】</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価室において、Iの1の(3)の③の「教育活動の評価及び評価結果を質の改善につなげるための具体的方策」及び同2の(2)の⑥の「研究活動の評価及び評価結果を質の向上につなげるための具体的方策」に掲げるものを中心に、各教育研究組織の評価体制が効率的に機能を発揮しうよう支援する。 	III	<p>(平成19年度の実施状況)</p> <p>【60-1】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教育研究組織の評価体制が効率的に機能を発揮しうよう評価室において以下のとおり支援した。 <ol style="list-style-type: none"> 大学情報データベースにより、教員の教育・研究・大学運営・社会貢献活動データを集積し、評価の基礎資料として活用できるようにするとともに、ホームページで公開した。また、各教育研究組織に係る基礎データを集積し、中期目標期間評価等に活用した。 授業アンケートを実施し、結果を各教員及び所属部局長等へフィードバックするとともに、全学の傾向を分析しホームページで公表した。 		
	<p>【60-2】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中期目標の期間における業務の実績を明らかにした報告書を適切かつ効率的に作成するために必要な方策について検討し、成案を得るとともに、学内体制を確立する。 	III	<p>【60-2】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成18年度の検討結果を踏まえ、中期目標期間評価の全学的な実施・支援体制として、各総長室及び現況分析単位ごとに「評価担当者」を定め、連絡会、作業調整部会を設置した。これらにより評価室、各総長室及び各教育研究組織が連携して実績報告書を作成する体制を確立し、作成に着手した。 		
<p>【61】</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価に必要不可欠なデータを全学的に集約、蓄積し、評価に迅速かつ効率的に利用できる基盤を平成18年度中を目途に構築する。 		IV	<p>(平成16～18年度の実施状況概略)</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価室の下にデータ集積・分析システムWGを設置（平成16年10月）し、評価に必要不可欠なデータを全学的に集約、蓄積し、評価に迅速かつ効率的に利用可能なシステムの構築について検討し、全学のデータベースとの統合化を視野に入れた柔軟性を持つ本学独自の仕様を確定した（平成17年12月）。平成18年5月から平成19年8月にかけて、大学情報データベースの構築を進めた。 教員の活動等を示す1次データについては、旧研究業績データベースに集積した「研究者情報」、「研究業績情報」の全データ及び「教員の教育・管理運営・社会貢献活動一覧」の過去 	<ul style="list-style-type: none"> 大学情報データベースを中期目標期間評価、機関別認証評価及び年度評価等に適切かつ効率的に活用する。 大学情報データベースを活用し、定期的に研究開発支援総合ディレクトリ（Read）に研究者情報を提供する。 	

	<p>【61】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成18年度に構築した「大学情報データベースシステム」に、評価に必要不可欠なデータを全学的に集約、蓄積し、評価に迅速かつ効率的に利用する。 	IV	<p>3年間の調査データを初期データとして登録し、平成19年2月から本学ホームページ上で一般公開し、入力等を含めた運用を開始した。</p> <p>IV (平成19年度の実施状況) 【61】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員の活動等を示す1次データは引き続きデータ入力を推進し、ホームページ上で公開した。また、組織の活動を示す2次データについては8月から集積を開始した。なお、データ集積に当たっては、入力作業の重複を防ぐため、学内の既存システムと連携して効率化を図った。 集積データは、各教育研究組織、各総長室等において、必要なデータを随時直接取り出し、目的にあわせて加工することが可能であり、中期目標期間評価等に積極的に活用された。 大学評価・学位授与機構のデータベースへのデータ提供に当たっては、改めて入力作業を行うことなく、本学大学情報データベースに集積したデータを電子ファイルで出力し登録した。 評価室の下に大学情報データベース運用・管理部会を設置し、「運用及び管理に関する基本方針」を定め、円滑な運用の指針とした。 以上のとおり、評価に必要不可欠なデータを全学的に効率的に集積するデータベースを構築し、評価に活用した。加えて、同データベースにより教員の諸活動データをホームページ上で公開するなど、積極的に活用したことから、中期計画を上回って実施していると判断する。 		
<p>【62】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会に対する説明責任を果たすため、授業アンケートの結果などを含む自己点検・評価の結果を、ホームページ等により公表する。 		IV	<p>(平成16～18年度の実施状況概略)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートの結果について、全学の傾向を分析し、ホームページで公表した(毎年度)。また、授業アンケートの評価平均点が上位となった授業の担当教員の氏名、授業の内容・工夫等についてもホームページで公表し、特に平成17年度実施分からは担当教員を「エクセレント・ティーチャーズ」として公表した。 平成17年度に実施した授業アンケート結果への教員の対応等の調査結果を取りまとめ、「教員からのメッセージ」としてホームページで公表した(平成18年度)。 評価の基礎資料として、教員の教育・研究・管理運営・社会貢献の諸活動を取りまとめ、ホ 	<ul style="list-style-type: none"> 社会に対する説明責任を果たすため、授業アンケートの結果などを含む自己点検・評価の結果等を引き続きホームページ等により公表する。 	

			<p>ームページで公表した（平成16年度～平成18年度）。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各部局等においては、点検・評価の結果や年報等を冊子あるいはホームページで公表した（平成16年度14部局、平成17年度16部局、平成18年度14部局）。 点検評価関係資料・統計資料をホームページで公表した（毎年度）。 		
<p>②評価結果を大学運営の改善に活用するための具体的方策</p> <p>【63】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前記①の「自己点検・評価の改善に関する具体的方策」に掲げる全学システムの一環として、各種自己点検・評価並びに各事業年度及び中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果を分析し、全学的視点から教育研究活動や業務運営の改善に効果的に反映させるための学内体制を確立する。 	<p>【62】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会に対する説明責任を果たすため、授業アンケートの結果などを含む自己点検・評価の結果を、ホームページ等により公表する。 	<p>IV</p>	<p>(平成19年度の実施状況)</p> <p>【62】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートの結果について、全学の傾向を分析し公表するとともに、評価平均点が上位となった授業の担当教員を「エクセレント・ティーチャーズ」とし、その授業内容や工夫などをホームページで公表した。 平成18年度に係る業務の実績に関する報告書及び評価結果をホームページで公表した。 各部局でも18部局において点検・評価の結果や年報を冊子あるいはホームページで公表した。 以上のとおり、授業アンケートの結果を含む自己点検・評価の結果のみならず、授業アンケート結果への「教員からのメッセージ」や「エクセレント・ティーチャーズ」等をホームページ上で公表し、社会に対する説明責任を十二分に果たしたことから、中期計画を上回って実施していると判断する。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでに確立した体制により、平成19年度、平成20年度に係る業務の実績に関する評価結果及び中期目標期間評価における評価結果を分析し、その結果に基づき、全学的視点から教育研究活動や業務運営の改善に取り組む。 	
		<p>III</p>	<p>(平成16～18年度の実施状況概略)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各年度に係る業務の実績に関する評価結果を改善に効果的に反映させるため、実績報告書原案の作成は、年度計画の遂行を担当する各総長室等が担当することとし、年度計画の遂行状況を自ら把握し、改善に効果的に反映させる体制とした（平成16年度）。 各年度に係る業務の実績に関する評価結果については、役員会、教育研究評議会及び経営協議会において評価室長が報告し、課題とされた事項について改善への取組を要請した。また、評価室において同規模大学の評価結果との比較分析を行い、各年度計画を担当する各総長室等に報告した。各年度の評価結果で課題があるとされたものについては、翌年度に取り組む事項として年度計画に反映させ、担当の総長室を中心に対応した。 		

			これらにより、中期計画及び年度計画の遂行を担当する各総長室等が、計画の遂行状況を自ら把握し、評価結果を教育研究活動や業務運営の改善に効果的に反映させる体制を確立した。		
	<p>【63】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成18年度に係る業務の実績に関する評価結果を分析し、その結果に基づき、全学的視点から教育研究活動や業務運営の改善に取り組む。 	III	<p>(平成19年度の実施状況)</p> <p>【63】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成18年度に係る業務の実績に関する評価結果については、役員会、教育研究評議会及び経営協議会において評価室長が報告した。また、評価室において同規模大学の評価結果との比較分析を行い、各年度計画を担当する各総長室等に報告した。 		
<p>【64】</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価結果を学内資源の配分を行う際の基礎資料として活用するためのシステムをⅡの1の⑤の「全学的視点からの戦略的な学内資源配分に関する具体的方策」の一環として検討し、平成18年度を目途に実施する。 		III	<p>(平成16～18年度の実施状況概略)</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画・経営室において、「全学的視点からの戦略的な学内資源配分に関する具体的方策」の一環として、研究科等における教育研究の活性化や改善のための取り組みの進捗状況に関する評価をベースとする傾斜配分を実施するための方策を検討し、「博士(後期)課程充足率」、「博士号学位授与率」及び「外部資金受入状況」を評価基準とする傾斜配分を平成18年度から実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、「博士(後期)課程充足率」、「博士号学位授与率」及び「外部資金受入状況」を評価基準とする傾斜配分を実施し、研究科等における教育研究の活性化や改善のための取組の進捗状況に関する評価を予算配分へ反映させる。 	
	<p>【64】</p> <p>(平成19年度は年度計画なし)</p>	III	<p>(平成19年度の実施状況)</p> <p>【64】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成18年度に引き続き、「博士(後期)課程充足率」、「博士号学位授与率」及び「外部資金受入状況」を評価基準とする傾斜配分を実施し、研究科等における教育研究の活性化や改善のための取組の進捗状況に関する評価を予算配分へ反映させた。 		
<p>【65】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員の教育、研究、管理運営、社会貢献に関する実績を評価しインセンティブ付与に適切に結びつけるシステムをⅡの3の①の「人事評価システムの整備・活用に関する具体的方策」の一環として検討し、平成19年 		III	<p>(平成16～18年度の実施状況概略)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員の教育、研究、管理運営、社会貢献に関する実績を評価しインセンティブ付与に適切に結びつけるシステムをⅡの3の①の「人事評価システムの整備・活用に関する具体的方策」の一環として検討し、平成19年度中の実施を目途に、平成18年度に「教員の業績評価システムについての基本方針」を取りまとめた。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成19年度に引き続き、平成18年度に取りまとめた「教員の業績評価システムについての基本方針」に基づき部局等において策定した具体的基準等により、勤勉手当の成績優秀者の選考及び昇給 	

<p>度を目途に実施する。</p>	<p>【65】 ・ 教員の教育, 研究, 管理運営, 社会貢献に関する実績を評価しインセンティブ付与に適切に結びつけるシステムについて, 平成18年度に取りまとめた基本方針に従い, 部局ごとに具体的な基準等を策定し, 平成19年度中の実施に向けて検討する。</p>	<p>III</p>	<p>(平成19年度の実施状況) 【65】 ・ 平成18年度に取りまとめた「教員の業績評価システムについての基本方針」に基づき, 部局等において具体的な基準等を策定し, 平成19年12月期勤勉手当の成績優秀者の選考及び平成20年1月実施の昇給に係る勤務成績の判定に反映させた。</p>	<p>に係る勤務成績の判定を行う。</p>		
			<p>ウェイト小計</p>			

I 業務運営・財務内容等の状況
 (3) 自己点検・評価及び情報提供
 ② 情報公開の推進に関する目標

中期目標	国民に支えられる大学として社会に対する説明責任を果たすため、教育研究、組織運営など広範囲にわたる各種情報を広く公開・提供する。
------	---

中期計画	平成19年度計画	進捗状況		判断理由（計画の実施状況等）		ウェイト	
		中期	年度	平成19年度までの実施状況	平成20～21年度の実施予定	中期	年度
<p>【66】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学における教育研究活動面に関する多彩な情報を、広報資料及びホームページを活用して、より分かり易く公開・提供する。 		III		<p>(平成16～18年度の実施状況概略)</p> <ul style="list-style-type: none"> 従前より本学における教育研究活動面に関する多彩な情報をより分かり易く公開・提供するために、平成18年4月にホームページを次のとおりリニューアルし、利用者の利便性の向上を図った。 <ol style="list-style-type: none"> トップページ等を視覚的に分かり易いデザインとした。 訪問者別インデックスを設けた。 携帯電話にも対応する機能を付加した。 平成18年7月に総長を室長とした広報室の下にホームページ部会を設置し、本学のホームページの在り方について、逐次改善を図る体制を整備した。 大学情報データベースを構築し「教員の教育、研究、大学運営、社会貢献活動」のデータを平成19年2月から公開した。 本学の最新の研究内容を分かり易く一般に紹介する広報誌「リテラポプリ」を年4回発行し学内外に配布するとともにホームページでも公開した。 平成18年4月から本学の教員等の教育研究成果を蓄積・公開する「北海道大学学術成果コレクション（HUSCAP）」を公開した。 平成19年3月から本学の研究者の研究成果を一般市民が平易な言葉で検索可能な研究業績データベース「NSハイウエイ」を公開した。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き本学における教育研究活動に関する多彩な情報を、迅速かつ分かり易く、広報資料及びホームページを活用して公開・提供する。 平成20年度に洞爺湖で開催されるサミットに向けて、北海道大学の環境問題の取組状況を広報誌「リテラポプリ」で特集し、日本語版と英語版を発行する。 平成20年度開催のサミット及びG8に向けて、ホームページに積極的に情報を掲載し本学の取組状況を周知する。 		

	<p>【66】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学における教育研究活動に関する多彩な情報を、迅速かつ分かりやすく、広報資料及びホームページを活用して公開・提供する。 	<p>III</p>	<p>(平成19年度の実施状況)</p> <p>【66】</p> <ul style="list-style-type: none"> 広報室の下に平成18年設置したホームページ部会での検討結果を受け、訪問者別インデックスの内容を大幅に見直し、よりわかりやすい案内へと更新するとともに、様々な検索機能案内を掲載し、利便性の向上を図った。 新着情報の掲載数を増やすため、次のことを行い、結果として新着情報掲載数は前年度の約3倍となった。 <ol style="list-style-type: none"> ① トップページの改良（フレーム化） ② イベント情報を時系列で見ることができるイベントカレンダーの作成、公開 ③ 新着情報の掲載方法を様式化し学内に周知 高校生向けの情報をより多く、わかりやすくするために入試情報のページを大幅に改訂し、アドミッションセンターのホームページとして公開した。 平成18年度に公開した、本学の教員等の教育研究成果を蓄積・公開する「北海道大学学術成果コレクション（HUSCAP）」の、収録文献数が平成19年度には23,171件を超え、閲覧数が1,543,134件を超えるなど、内容の充実及び利用促進を図った。 本学の最新の研究内容を分かりやすく一般に紹介する広報誌「リテラポプリ」を昨年に引き続き発行し学内外に配布するとともにホームページでも公開した。 平成19年11月、関西同窓会が運営する「北大会館」に雑誌架を置き、本学の広報パンフレットを閲覧・配布するなど関西地区における情報発信の拠点とした。 		
<p>【67】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学の中期目標、中期計画、年度計画、財務内容等組織運営面に関する情報を、ホームページを用いて積極的に発信する。 		<p>III</p>	<p>(平成16～18年度の実施状況概略)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学の基本理念と長期目標、中期計画、年度計画、財務内容等組織運営面に関する情報を速やかにホームページに掲載し積極的に発信した。 また「新着情報」の欄を設け、本学に関する最新の情報を常に発信するようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き本学の中期目標、中期計画、年度計画等組織運営面に関する情報を、ホームページを用いて積極的に発信する。 	

	<p>【67】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き本学の中期目標，中期計画，年度計画等組織運営面に関する情報を，ホームページを用いて積極的に発信する。 	III	<p>(平成19年度の実施状況)</p> <p>【67】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き次の情報を発信した。 <ol style="list-style-type: none"> ① 本学の基本理念と長期目標，中期計画，年度計画，財務内容等組織運営面に関する情報を速やかに掲載し積極的に発信した。 ② 「新着情報」の欄を設け本学に関する最新の情報も常に発信した。 組織運営面に関する情報を即時掲載することに努め，平成19年5月に就任した新総長及び新組織の紹介，決算情報公表，さらにはニュース性のある大学の決定などをプレスリリース，記者会見と同時にホームページ上に掲載した。 信頼のできる情報発信源としてのホームページを支えるため，改ざん対策を含めたセキュリティソフトの導入を検討し，平成20年度に導入することとした。 		
<p>【68】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学外からの多様な問い合わせに応える方策として，ホームページ上にFAQ (Frequently Asked Question) を掲載するとともに，平成17年度中を目途にFAQに対応する学内体制を整備する。 	<p>(平成16～18年度の実施状況概略)</p>	III	<p>(平成16～18年度の実施状況概略)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学外者からの質問事項や各部署が独自に掲載しているFAQの項目・内容を整理し全学共通のFAQを作成し平成18年度にホームページ上に公開した。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎年度，FAQを見直し充実を図る。 	
<p>【69】</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界に対して広く情報を発信するため，英文版のホームページの充実を図る。 	<p>【68】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成18年度に掲載したFAQの充実を図る。 	III	<p>(平成19年度の実施状況)</p> <p>【68】</p> <ul style="list-style-type: none"> FAQの項目内容に沿うかたちで，一般の方々に向けた説明つきキャンパスマップや，イチョウ並木黄葉状況など，問い合わせが多い事項について，より詳細な情報をホームページに掲載した。 多様な問い合わせの分析から，事前に問い合わせが多くなると予想される事項について，積極的にトップページ新着情報へ掲載するなど，問い合わせ対応としてホームページを活用するよう努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成18年度にまとめた「国際化のための広報の方向性」に基づき，ホームページの充実を図りつつ，留学生の確保，研究の連携強化，留学生の同窓生との関係強化に向け，戦略性を高めた広報活動を展開する。 	
	<p>(平成16～18年度の実施状況概略)</p>	IV	<p>(平成16～18年度の実施状況概略)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成16年度から，協定校，帰国留学生，海外在住の本学関係者等に対し，「英文ニューズレター」を発刊し，平成17年度から中国語版も刊行したほか，本学ホームページに掲載を開始した。 平成18年度からホームページ情報の更新頻度を高めるとともに，国際関係情報のリンクを増やすなど情報の拡充に努めた。 		

			<ul style="list-style-type: none"> 「持続可能な開発」国際戦略本部の英文ホームページを立ち上げ、関係する国際シンポジウムやワークショップ等の情報提供を行った。 平成18年4月に北京オフィスをオープンし、オフィスの有効活用を促進するための情報提供として、「メール通信」を隔月で発行した。 	<ul style="list-style-type: none"> 「G8北海道洞爺湖サミット」を期に展開する「サステナビリティ・ウィーク」,「大学サミット」などを通し,「持続可能性」や「環境」に係る本学の研究・教育・社会貢献活動について,事務局と各部局の連携を強化しつつ,集中的な国際広報を行い,本学をアピールする。 これらの取り組みおよび成果を梃子として,部局を含めた本学全体の国際広報基盤の強化を行い,平成21年度には国際広報について,事務局と各部局との間で次期中期目標・中期計画の国際戦略をベースとした広報方針の共有化と活動の連携を図る。 	
	<p>【69】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成18年度にまとめた「国際化のための広報の方向性」に基づき,ホームページの充実を図りつつ,戦略性を高めた広報活動を展開する。 	IV	<p>(平成19年度の実施状況)</p> <p>【69】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学英語版ホームページについて,広報室等との連携強化を図り,情報の更新頻度を高めた。 平成19年4月に北京オフィスのホームページを開設し,日本語・中国語による情報提供を始めた。 「持続可能な開発」国際戦略本部の活動に関する情報提供を充実させるため,平成19年5月にウェブサイト‘Hokudai Network for Global Sustainability’を開設した。掲載記事の収集のため,多数の部局のウェブサイト担当者を「ウェブサイト・コラボレーター」として委嘱し,プロジェクト・プランナーとコラボレーターとの海外広報における協働を開始した。 平成20年7月に開催されるG8北海道洞爺湖サミットに向けた本学の取り組みや関連行事の情報を発信するため,平成19年12月に「サステナビリティ・ウィーク2008」のウェブサイト(日本語・英語)を開設した。 平成20年2月には全米科学振興協会(AAAS)において,展示ブースを出展し,本学のサステナビリティ・ウィーク2008の広報を行い,本学の取り組みをアピールした。 平成20年3月に本学総長をはじめ8部局等の教員・学生等が参加して,本学の説明会「北海道大学デイズ」(2日間)を北京科技大学において開催した。 以上のとおり,大学の英文版ホームページ充実のみならず,北京オフィスのホームページを開設し中国語による情報提供を開始したり,「持続可能な開発」国際戦略本部のウェブサイト(日本語・英語)を開設するなど,世界に対して広く情報を発信したことから,中期計画を上回って実施していると判断する。 		
<p>【70】</p> <ul style="list-style-type: none"> 北大交流プラザ「エルムの森」 		III	<p>(平成16～18年度の実施状況概略)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民等の交流拠点,広報拠点等の多目的スぺ 	<ul style="list-style-type: none"> 北大交流プラザ「エルムの 	

<p>を広報拠点の一つとして位置づけ、中学校・高等学校の生徒や一般市民等来学者に対するサービスを充実させる。</p>			<p>ースとして設置した北大交流プラザ「エルムの森」では、北大ゆかりの絵画展、写真展など各種イベントの実施、北大紹介DVDの放映、「エルムの森ショップ」での北大認定商品の販売を通して中学校・高等学校の生徒や一般市民等来学者に対するサービスの充実を図った。これらの取組により、平成18年度の利用者数は48,505人となり、平成16年度に比べ3.7倍に増加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成18年12月から北大認定グッズのネット販売を開始したことにより遠方の学外者にも購入を可能とし、サービスの向上に努めた。 	<p>森」では、引き続き以下の取組を行う。</p> <p>ア) 北海道大学広報戦略の一環として設置した「北大ショップ」のさらなる充実を図る。</p> <p>イ) 学生の課外活動団体「美術部黒百合会」の展覧会を開催する。</p> <p>ウ) 利用者の増加する4月中旬から11月までの間、土・日・祝祭日も開館する。</p>
	<p>【70】</p> <ul style="list-style-type: none"> 北大交流プラザ「エルムの森」では以下の取組を行う。 ア) 北海道大学広報戦略の一環として設置した「北大ショップ」のさらなる充実を図る。 イ) 学生の課外活動団体「美術部黒百合会」の展覧会を開催する。 ウ) 利用者の増加する4月中旬から11月までの間、土・日・祝祭日も開館する。 	<p>III</p>	<p>(平成19年度の実施状況)</p> <p>【70】</p> <ul style="list-style-type: none"> 北大交流プラザ「エルムの森」では、引き続き次の事項を実施し来学者に対するサービスを充実させた結果、利用者数が55,852人となり、昨年度に比べ15%増加した。 ① 新たな北大認定商品を開発し「北大ショップ」の充実を図った。 ② 学生の課外活動団体「美術部黒百合会」の展覧会を開催した。 ③ 4月から11月までの間、土・日・祝祭日も開館し利用者へのサービスに努めた。 ④ 北海道大学を訪れた高校生・中学生を対象に広報課職員・入試課職員が北大の歴史や概要を説明するために交流プラザ「エルムの森」を利用しサービス向上に努めた。 接客サービスの向上のため、北大ショップの販売員(本学学生アルバイト)に接遇・ラッピングの講習を受講させた。 	
<p>【71】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「北海道大学東京オフィス」を拠点として、首都圏近郊における情報の発信と収集を充実させるほか、企業等との連携の促進及び同窓会組織との交流を図る。 		<p>IV</p>	<p>(平成16～18年度の実施状況概略)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「北海道大学東京オフィス」を首都圏近郊における情報発信・収集の拠点として運営した。特にフロンティアセミナー開催など首都圏における本学の研究の情報発信の支援、在京企業の求人情報の収集、及び東京近郊における学生の就職活動の拠点としてキャリアセンターの事業の支援を行った。 19年3月に、より面積が広く立地条件の良いJR東京駅直結のビル(サピアタワー)に移転し、会議室を二つ備え、テレビ会議システムを導入した。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京オフィスにオフィス所長(特任教授)1名を配置し、情報発信や情報収集を行うサポート体制をより強化する。 アクセスの良さと面積が広がったことを最大限に活用し、大学説明会、大学院入試、研究打合せ、就職説明会など本学の教育研究に係わる催しを開催し、より一層の

	<p>【71】</p> <ul style="list-style-type: none"> 移転した「北海道大学東京オフィス」のアクセスの利便性や広くなった同オフィスを最大限に利用し、東京における情報発信や情報収集をさらに強化する。また、同オフィス内に同窓会スペースを確保し、同窓会活動の促進を図る。 	IV	<ul style="list-style-type: none"> 同窓会スペースも併設し同窓会組織との交流の充実を図った。 <p>(平成19年度の実施状況) 【71】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「北海道大学東京オフィス」は、移転によりアクセスの利便性が向上し、また広いスペースを確保した結果、大学院入試説明会、大学病院看護師採用試験会場、研究者の打合せなどに頻繁に利用され、利用者数は、4,013名となり前年度と比較して約3.3倍となった。 同窓会事務室を併設したことにより首都圏近郊における同窓会との交流が促進された。 オフィス職員を1名から2名に増員し、情報発信や情報収集を行うサポート体制の強化を図った。 以上のとおり、「本学東京オフィス」を首都圏近郊における情報発信・収集の拠点として運用した。加えて、移転後はアクセスの利便性が向上し、大学院入試説明会、大学病院看護師採用試験会場等に積極的に活用されていることから、中期計画を上回って実施していると判断する。 	<p>首都圏近郊における北大の情報発信を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生が大学のキャンパスから在京企業の説明を受けられるようにテレビ会議システムを活用し就職活動の支援を行う。 併設されている同窓会事務室を利用して首都圏近郊における同窓会組織との交流の一層の促進を図る。 	
			ウェイト小計		

			ウェイト総計		

[ウェイト付けの理由]

(3) 自己点検・評価及び情報提供に関する特記事項等

1. 特記事項**【平成16～18事業年度】****1. 全学的評価体制の整備**

多様化する評価に対応するため、平成16年4月に「評価室」を設置し、教育研究組織（部局等）で行う自己点検・評価を支援するとともに、全学的な点検評価を実施した。

評価室と各総長室が連携し、各年度の実績報告書の評価結果を大学運営の改善・向上に活用した。

また、部局等においても評価体制を整備し、平成16年度10部局等、平成17年度10部局等、平成18年度14部局等、3年間で34部局等で自己点検・評価を実施し、3年間で延べ7部局等で外部評価・第三者評価を実施するとともに、点検・評価の結果等を冊子又はホームページで公表した。

部局等においては、評価結果を踏まえて大学院組織の改組及び研究活動の活性化の検討を行った。

2. 広報室の設置

平成17年に全学的な広報に関する企画立案等を協議する組織として総長が室長となり理事・役員補佐等で構成されている「広報室」を設け、広報体制を強化した。さらに、協議の場に(株)電通北海道の職員にオブザーバー参加を依頼し、大学の様々な広報活動についての意見を聴取し参考とした。

3. 教員の業績評価システム導入の決定

教員の業績評価については、平成17年度に係る業務の実績に関する評価において指摘された事項であるが、本学の中期計画においても、平成19年度を目途として教員の教育、研究、管理運営、社会貢献に関する実績を評価しインセンティブに結びつけることが謳われており、それに基づいて、「教員の業績評価システムについての基本方針」を策定した。平成19年度には、同基本方針に従い、部局ごとに具体的な基準を策定することとした。

4. 大学情報データベースの構築

評価に必要な不可欠なデータを全学的に集約、蓄積する「大学情報データベース」を構築し、平成19年2月に運用を開始した。本データベースはそれまで評価の基礎資料として取りまとめていた教員の「教育・研究・大学運営・社会貢献活動」を初期データとして登録し、ホームページ上で公開した。

5. 学生による授業アンケートの実施

学生による授業アンケートを平成16年度以降も引き続き実施し、以下の取組を行った。

- ・ アンケート結果は教員個人別に集計し、評点・順位を各教員・所属部局長等へフィードバックするとともに、全学の傾向を分析し公表した（毎年度）。
- ・ アンケートの評価平均点が上位の授業担当教員を「エクセレント・ティーチャーズ」とし、その授業内容や工夫等を公表した（毎年）。
- ・ 匿名式によるアンケートの妥当性を検証するため、記名式アンケートを実施し、同様の有効性を確認し分析結果を公表した（平成16・17年度）。
- ・ アンケート結果への教員の対応等について調査し、その結果を「教員からのメッセージ」としてホームページに公表した（平成18年度）。
- ・ 高等教育機能開発総合センターと協力し、授業アンケートの実施方法・内容の見直し、設問を整理するなど改善を図った（平成18年度）。
- ・ 各教員は授業アンケート結果を活用して授業改善を図り、その結果、授業アンケートの総合評価は平成16年度3.69、平成17年度3.73、平成18年度3.78と着実に上昇した。

6. (株)電通北海道との包括連携

平成17年2月、本学は(株)電通北海道と相互の連携をとって研究交流や人材育成など相互の協力が可能なすべての分野において、具体的な協力を有機的に推進するため、連携プログラムに関する協定を締結した。

この協定により平成17年度から毎年、本学職員1名を電通北海道及び電通グループに1年間派遣し、同社の実施するプログラムをとって、専門性の高い広報担当者を育成するとともに、電通北海道の職員からも本学の広報戦略について意見を聴取するなどして、国立大学法人としての広報体制づくりを図った。

また、平成18年4月、本学認定商品を販売する際に必要となる本学の商標権利を確立するために「コミュニケーションマーク」の作成を電通北海道に依頼し、グラフィックデザイナーのデザインによる「知恵と知識の輪郭」をコンセプトとしたマークを制定した。

7. 朝日新聞社との基本合意に基づく提携プロジェクト

本学と朝日新聞社・北海道テレビ放送は、それぞれの社会的責務を、より効果的かつ公正に果たすことを目的に提携・協力を進めることで平成17年7月に基本合意を締結した。この基本合意の下での提携・協力を「ポプラプロジェクト」と称し、平成18年にはサステナビリティーをメインテーマに「北海道大学サステナビリティー・サイエンス・フォーラム」を開催した。これは東京と札幌で開催したもので多くの一般市民に本学の最新の地球環境問題への取組について伝えることができた。

8. 北海道大学・緑のピアガーデン開催

平成18年8月の9日間「北大・緑のピアガーデン」を開催し、キャンパスのタベ

を地域に開放した。来客の多くはふだん構内に足を運ぶ機会がない一般市民で、本学をより身近に感じてもらうことができた。

【平成19事業年度】

1. 全学的評価体制の整備・確立

評価室は、教育研究組織（部局等）で行う自己点検・評価を支援するとともに、全学的な点検評価を実施した。

評価室と各総長室、各部局等が連携・協力し、中期目標期間評価における全学的な実施・支援体制を確立し、実績報告書作成に着手した。

また、16部局等で自己点検・評価を実施し、9部局等で外部評価・第三者評価を実施するとともに、点検・評価結果等を冊子又はホームページで公表した。

部局等においては、評価結果を踏まえてカリキュラムや教育方法の検討・改善を行った。

2. 教員の業績評価システムの導入

教員の業績評価については、平成17年度に係る業務の実績に関する評価において指摘された事項であるが、本学の中期計画においても、平成19年度を目途として教員の教育、研究、管理運営、社会貢献に関する実績を評価しインセンティブに結びつけることが謳われており、それに沿って平成18年度に取りまとめた「教員の業績評価システムについての基本方針」に基づき、部局等において具体的な基準等を策定し、勤勉手当の成績優秀者の選考及び昇給に係る勤務成績の判定に反映させた。

3. 大学情報データベースの充実・活用

大学情報データベースにより、教員の「教育・研究・大学運営・社会貢献活動」データを集積し、各部局において、これらデータを電子ファイルで出力できる機能を用意し、評価の基礎資料として活用できるようにするとともに、ホームページ上で公開した。また、教育研究組織に係る基礎データは8月から集積を開始し、各部局等、各総長室等において、中期目標期間評価の根拠資料・データとして積極的に活用した。

なお、大学評価・学位授与機構のデータベースへのデータ提供に当たっては、改めて調査等を行うことなく、本データベースに集積したデータを電子ファイルで出力し、登録した。

4. 学生による授業アンケートの実施

学生による授業アンケートを引き続き実施し、以下の取組を行った。

- ・ アンケート結果は個人別に集計し、評点・順位を各教員及び所属部局長等へフィードバックするとともに、全学の傾向を分析し公表した。
- ・ 授業アンケートの評価平均点が上位の授業担当教員を「エクセレント・ティーチャーズ」とし、その授業内容や工夫等を公表した。
- ・ 部局におけるアンケート結果の活用状況を調査し、その結果を取りまとめ部局長にフィードバックした。なお、部局では、アンケート結果を部局FD及びカリ

キュラム改定等に活用している。

- ・ 各教員も授業アンケート結果を活用して授業改善を図り、その結果、授業アンケートの総合評価は3.78と昨年に引き続き高い水準を維持した。

5. 朝日新聞社との基本合意に基づく提携プロジェクト

平成19年は、同プロジェクトにより「北海道大学プロフェッサー・ビジット2007」を実施した。これは、本学教員が講師となって全国の高等学校で地球環境問題について講義を行う企画である。広告を出したところ全国から78校の応募があり、そのなかから28校に訪問講義を行い7,540名が参加し、大きな成果を上げた。

この企画により本学の最新の研究成果の情報を一般市民及び高校生に広く提供することができた。また、朝日新聞社との共催事業ということで全国版の新聞広告及び記事による実施報告がその都度掲載され、全国に北海道大学の知名度を向上させる一助となった。

6. (株)電通北海道との包括連携

同連携協定の締結3周年を記念して平成20年2月にコミュニケーションマークをデザインしたグラフィックデザイナーの講演会「環境から学ぶデザイン」を電通北海道と共同開催し、200名以上の参加があった。学外者の参加も多く講演実施を通じて北海道大学の広報の取組状況等を周知することができた。

また、平成17年度・18年度に引き続き、平成19年度も電通に社外研修生として本学職員1名を派遣した。

2. 共通事項に係る取組状況

1. 情報公開の促進が図られているか。

【平成16～18年事業年度】

配布広報誌ならびにホームページを本学の情報公開・発信の主媒体と位置づけ、その内容の充実に努めた。

- ・ 広報室の下にホームページ部会を設置し、本学のホームページの在り方について、逐次改善を図る体制を整備した。
- ・ ホームページのトップページ等を視覚的に分かり易いデザインとするなどリニューアルし、利用者の利便性の向上を図った。
- ・ 「新着情報」の欄を設け、本学に関する最新の情報を常に発信するようにした。
- ・ 学外者からの質問事項や各部局が独自に掲載しているFAQの項目・内容を整理し、全学共通として公開した。
- ・ 大学情報データベースを構築し「研究者情報」及び「研究業績情報」の全データ及び「教員の教育、管理運営、社会貢献活動一覧」の過去3年間のデータを移行し、平成19年2月から公開した。
- ・ 本学の最新の研究内容を分かり易く一般に紹介する広報誌「リテラポプリ」を年4回発行し学内外に配布するとともにホームページでも公開した。

- ・ 本学の基本理念と長期目標，中期計画，年度計画等組織運営面に関する情報を速やかに掲載し積極的に発信した。

【平成19事業年度】

昨年度に引き続き，配布広報誌ならびにホームページを本学の情報公開・発信の主媒体と位置づけ，その内容の充実に努めた。

- ・ インデックス内容，新着情報の記載を大幅に見直し，利便性の向上を図った。
- ・ F A Qを見直して，充実を図るとともにF A Qの項目内容にリンクした説明つきキャンパスマップや，イチョウ並木黄葉状況など，問い合わせが多い事項について，より詳細な情報を掲載した。
- ・ 組織運営面に関する情報を即時掲載することに努め，平成19年5月に就任した新総長及び新組織の紹介，決算情報公表，さらにはニュース性のある大学の決定などをプレスリリース，記者会見と同時にホームページ上に掲載した。
- ・ 高校生向けに入試情報のページを大幅に改訂し，アドミッションセンターのホームページとして公開した。
- ・ 信頼のできる情報発信源としてのホームページを支えるため，改ざん対策を含めたセキュリティソフトの導入を検討し，平成20年度に導入することとした。
- ・ 平成18年度に公開した，本学の研究者や大学院生等が著した学術論文，学会発表資料，教育資料等を保存・公開するシステムである北海道大学学術成果コレクション（HUSCAP: Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers）の内容の充実及び利用促進を図った結果，収録文献数が平成19年度には23,171件を超え，閲覧数が1,543,134件を超えた。
- ・ 平成18年度に公開した，自然言語による検索が可能な研究者検索システム「N Sハイウェイ」をさらに充実させた。
- ・ 本学の最新の研究内容を分かり易く一般に紹介する広報誌「リテラボプリ」を発行し，学内外に配布するとともにホームページでも公開した。
- ・ 関西地区における情報発信の拠点として，平成19年11月，関西同窓会が運営する「北大会館」に雑誌架を置き，本学の広報パンフレットを閲覧・配布できるようにした。